

令和5年度(2023年度) 学校評価総括表 【伊丹市立神津小学校】

教育目標			心身共に健康で、自ら学び共に生きる子どもの育成									
重点目標			◎わかる授業の創造と確かな学力の育成 ◎一人一人を大切にした教育の推進 ◎体力づくりの推進 ◎ 健康で安全な生活の実践力育成 ◎家庭教育の推進 ◎開かれた学校づくりの推進 ◎学校力向上への団結									
主要 施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価	児童	保護者	教員	
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	・基礎的、基本的な知識・技能の定着を図る。 ・放課後学習や家庭学習ががんばり週間などの取り組みを通じて、家庭での学習の習慣化を促す。 ・学年に応じたドリル学習やプリント学習に継続的に取り組む。	・子どもは、家庭での学習週間が身についていると答える保護者が80%を超えている。 ・児童アンケートにおいて「計算や漢字、ことばの読み書きなど、基本的な力がついている」と答える児童が80%を超える。	B	・保護者へのアンケートの「子どもは、家庭での学習習慣が身についている」という質問への肯定的な回答は75.7%であった。 ・児童へのアンケートの「計算や漢字、ことばの読み書きなど、基本的な力がついている」という質問への肯定的な回答は83.6%であった。 ・全国学力状況調査からは、算数について基礎基本の定着が見られる一方で、国語については課題が見られた。	・国語では、「話すこと聞くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」に課題が見られるため、オリジナルの国語プリントを継続していくことに加え、思考力が必要となる応用的な問題に取り組む機会を多くする。 ・家庭学習について、宿題に取り組むだけでなく、個々の課題に応じた課題への取り組みも促していく。	・児童自身が「基本的な力をつけている」とした回答が目標を上回ったのは、教職員の取り組みの成果だと思う。さらに、思考力を高めていく組織的な取り組みを望む。 ・自ら主体的に学習に取り組む習慣づくりが重要だと考える。家庭と連携した取り組みを期待したい。	84%	75%		
		新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	・学校や家庭学習で積極的にタブレット端末を使用する。 ・情報モラルを育成する。	・各教科の学習活動において調べ学習やプレゼンテーションを取り入れたり、デジタル教材を使用したりすることで、個に応じた課題を家庭学習で取り組む。 ・学団ごとに情報モラルの育成目標を設定し、各学団で目標達成に向けて取り組む。	A	・低学年では、何かを調べる活動を、中学年・高学年では、総合的な学習の時間を中心に、動画、資料、情報収集の活動に取り組むことができた。 ・該当項目に対する回答率が児童・保護者ともに目標をこえることができた。その一方で、誤った使用による不具合や、家庭での行き過ぎた使用も散見された。	・学年の発達段階に応じて、継続した活用をしていく。 ・毎学期末の指導に加えて、気になる部分は都度指導し、より良い活用を進めたい。また、「ひょうごGIGAワークブック」等の資料を活用した情報モラル教育を行っていきたい。	・情報モラルの育成について、児童・保護者ともアンケートの肯定的な回答が目標を上回っているのは評価できる。 ・一方でタブレットの使い方などで課題もあるようなので、より積極的な取り組み、家庭への啓発などを進めてほしい。	96%	91%		
		「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	・問題行動を起こさせないきめ細やかな指導を行う。 ・早期発見と迅速な対応に努める。 ・新たに不登校児童をつくらないため、不登校傾向児童への初期対応を充実させる。	・居心地の良い学級作りをするためにクラスをオープンにし、職員間で情報を共有する。 ・いじめアンケートを実施し、必要に応じていじめ問題対策委員会を開き、すべてのいじめ案件について対策を考える。 ・欠席、遅刻などの連絡が無い場合は、午前9時までに初期対応を行う。 ・家庭訪問の実施し、組織的に対応する。	B	・いじめや問題行動等において重大事案に該当するものは0だった。しかし、今後の動向が気になる事案はあったため、引き続き指導を継続すべきだと考える。 ・不登校児童を0にすることはできなかったが、担任・児童支援担当をはじめ、教職員の丁寧な対応により再登校できた児童や行き渋りを克服できた児童もいた。 ・児童アンケートの「先生は、自分の意見をよく聞いてくれ、悩みや不安についても相談にのってくれている。」と回答する割合が90%以上になる。	・いじめや問題行動などにおいては、未然防止の指導を行うとともに、「学校」と「家庭」の双方向からアプローチできるように保護者と指導の内容を共有する。 ・個々の児童に応じて朝のお迎えや放課後登校などの取り組みを継続するとともに、安心して過ごせる学級づくりを進める。 ・カウンセリング・マインドに基づき、一人一人にきめ細かく関わることで、SO Sを出している児童を取り逃さないように取り組む。	・いじめや問題行動の未然防止や早期解決のために、教職員間や保護者等との情報の共有を今後も図ってほしい。 ・引き続き、一人一人の子どもたちを大切にしかかわり、安心して過ごせる学級づくりを大切にほしい。 ・今年度大切にしてきた「非認知能力」の育成は、引き続き、学校・家庭・地域の三者での取り組みを推進してほしい。	87%			
		「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	・運動に親しみ、自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。 ・運動委員会を中心に、業間体育の企画を実施する。 ・年間カリキュラムに沿って、多様な動きを授業の中に取り入れる。	・「全国体力・運動能力、運動習慣調査」において、「運動やスポーツをすることが好き」の肯定的回答が90%をこえる。	B	・「運動やスポーツをすることが好き」の質問に肯定的に答える児童は約81%で、90%には届かなかった。 ・年間カリキュラムに沿って、体ほぐし、陸上運動、器械運動、ボール運動の内容をどの学年でも行うことができた。	・業間体育の企画を増やして、児童が楽しく運動ができる機会を増やす。 ・体育の授業の中で、児童が「できた」と思えたり、「もっとやりたい」と思えるような授業づくりを行っていく。	・「運動やスポーツをすることが好き」の肯定的な回答90%をめざし、児童が「できた」と思えたり、「もっとやりたい」と思えるような授業づくりへの取り組みを期待する。 ・体力向上に向けて、外遊びや運動を日常化する取り組みを工夫されたい。	81%			
		教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー(SC)・スクールソーシャルワーカー(SSW)の活用 ③教育相談の充実	・SC、SSWと協力し、家庭訪問や教育相談を通して、保護者との連携を密にし、個に応じた支援体制の充実を図る。	・不登校傾向や日本語指導が必要な児童など、様々な支援が必要な児童について、教職員全体で課題を共通理解しながら、家庭、関係機関との連携による支援体制を充実させる。	・毎月1回以上、生活指導、人権教育、特別支援教育等の研修会を実施し、児童の抱える課題についての現状把握をし、家庭訪問やカウンセリング、ケース会議、教育相談等により、課題の解決に向けて組織的に取り組む。	B	・不登校傾向児童やその保護者に、学級担任を中心として校内で連携を図りながら支援した。必要に応じて、SC・SSWや関係機関と連携し、より専門的な観点から助言を受け、支援を進めた。 ・日本語指導が必要な児童には、言語支援員や児童支援教員等により、個に応じた支援を行うことができた。	・不安や悩みを抱える保護者が、積極的にカウンセリングを利用できるように予定日のチラシをGoogle配信し、情報を伝達し、より活用しやすい工夫を検討する。	・不安や悩みなどがある子どもや保護者が、安心して学校に相談できることが大切だと考える。学校としての組織的な対応とともに、SCや相談機関などに関する情報の発信についてぜひ工夫してほしい。			

	特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	・伊丹特別支援学校との交流を図る。 ・全ての児童がともに生き、ともに学び、ともに育つ集団作りを支える。	・伊丹特別支援学校と連絡し、定期的な交流を持つ。 ・のびのびノートで保護者との情報共有を図ることで、児童理解を深める。また、みんなの時間で、様々な自立活動を行う。 ・月ごとに校内で、児童のかかえる課題について共有を図り、クラスだけでなく、学校全体で支援を行えるようにする。 ・研修や巡回相談などの地域支援事業を活用しながら、実態や課題に応じた指導・支援を行う。	・伊丹特別支援学校との交流を進めることができる。 ・全ての児童がいきいきと学校生活を過ごすことができる。 ・特別支援教育の部会を年間12回実施することができる。 ・職員アンケートにおいて、「部会や研修を通して、児童の実態に即した指導・支援を学校として行うことができた。」で、肯定的な回答が80%を超える。	B	・伊丹特別支援学校やこやの里特別支援学校と定期的な交流が図れた。 ・のびのびノートで保護者と密に連絡を取り、実態に即した対応の共通理解を深めることができた。一方で、連絡が通じているか確認できないケースもあり、一層保護者に意義を理解してもらう努力も要する。また、みんなの時間は、時期やこどもの実態に合わせた様々な取り組みをすることができた。 ・特別支援教育の部会を年間を通して実施することができた。 ・職員アンケートにおいて肯定的な意見が100%であった。	・今後も定期的な交流を続ける。 ・登校を渋る児童もいたが、保護者と密に連絡を取る中で、元気に登校できるようになったように今後も連携を深めて児童を見守りたい。 ・研修や巡回相談など地域支援事業を積極的に活用していく。	・特別支援学校に通う地域の子どもたちとの交流は、双方にとって意義があることなので、今後も継続して取り組んでほしい。 ・今後も、支援を必要とする個々の児童の実態を踏まえて、家庭との連携を密にしながら、すべての児童が安心して過ごし学べる特別支援教育を進めてほしい。			100%
	教職員の資質向上 ①研修等の充実	・日々の授業について、教科書をなぞり網羅する意識ではなく、こだわりをもって子どもと創り上げる授業を実践する。 ・人権、ICT、キャリア教育など、幅広い分野の力量をもつ。	・全教員で取り組む授業研究として年6本の授業研究に取り組む。 ・授業力だけでなく、人権、ICTなど幅広い研修を重ねる。	・全教員で取り組む授業研究として6本の授業研究に取り組む。 ・児童アンケートにおいて、授業や学ぶことが楽しいという肯定的回答が80%を超える。	B	・各学年1本、計6本の全体授業研究会を開くことができた。その多くが事前研究会も含めて充実した授業研究会となった。 ・人権、ICT、カウンセリング、学校目標、特別支援と幅広い研修をすることができた。 ・児童へのアンケートの「授業は楽しい」という質問への肯定的な回答は67.2%であった。	・今後も、社会の変化に合わせて必要な研修を設定し、校内研修を充実させていく。 ・校内研修だけでなく、校外研修への参加も促していく。	・多忙な中で、多くの授業研究や研修に取り組まれていることがすばらしい。今後、校外研修などに参加しやすくなる工夫や環境づくりができるとよいと思う。	68%		94%
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	・学校運営協議会等との連携により、「確かな学力」、「健やかな体」、「豊かな心」の育成を図る。 ・来年度創立150周年に向けて、地域と連携し、子どもたちの「生きる力」の育成に努める。	・学校運営協議会委員や地域の方に、より学校の子どものことを知っていただき、意見交流の活性化を図る。 ・学校だよりやHP等により、学校生活の様子を情報発信し、保護者や地域との情報共有を行う。	・学校運営協議会委員が授業参観をする機会を持つ。また、地域の方が教育活動に参画できる方策を検討する。 ・学校だよりで月1回以上、学校生活の様子や、子どもの健全育成等に関する情報を発信する。また、HPでも学校生活の様子を多く発信する。	B	・9月の学校運営協議会をオープンスクールの日に実施し、授業の様子を参観していただいた。また、九九サポーターを募集し、多くの地域の方に協力していただくことができた。 ・学校だよりで月に1～2回、共有したい子どもの成長に関する情報を発信した。また、HPで学校生活の様子を積極的に発信した。	・学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進に向けて、より一層の学校運営協議会での熟議を図る。 ・創立150周年の節目の年度を、地域とともに祝えるよう、積極的に情報を発信していく。	・学校運営協議会としても学校と連携し、地域や保護者が学校運営に参画できる方策を検討し、体制づくりを進めていきたい。 ・創立150周年という節目を生かし、より地域との連携・協働を推進してほしい。			
	安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	・有事の際に児童を安全かつ確実に保護者へ引き渡せるよう、防犯訓練・防災訓練の充実を図る。 ・児童が安全かつ確実に登下校ができるよう、交通安全対策を推進する。 ・安全についての意識を高め、環境を整備する。 ・児童の生活実態を把握し、安全な学校生活が送れるように指導する。	・年に3回の防犯、防災訓練を実施する。 ・登校指導を定期的 to 実施し、生活指導と連携しながら、登下校時の学級指導を行う。 ・月1回の安全点検を実施する。 ・廊下、階段での正しい歩き方を身につけさせる。	・有事の際、児童を安全かつ確実に保護者へ引き渡すことができる。 ・児童が毎日安全に登下校を行うことができる。 ・登下校時の交通事故を0にする。 ・校内での衝突や転倒による重大事故を0にする。	A	・学期に1回の防犯、防災訓練を実施することができた。 ・登下校時の交通事故が0だったため、毎日交通ルールを守って、安全に登校することができた。 ・月1回の安全点検を行い、安心な教育環境を確保することができた。 ・校内での重大事故は0だったが、廊下や階段を走っている児童が多く見られた。 ・保護者、児童アンケートともに、安全指導の質問事項については、90%以上と肯定的な回答を受けることができた。	・今回、校内での重大事故は0だったが、休み時間や教室移動をするときに、階段や廊下を走っている児童がいた。これが続くと、重大事故に繋がるかもしれないため、日々の指導や、いろんな教職員からの声かけを続けていきたい。	・防犯訓練や防災訓練の取り組みが、子どもたちの命を守ることにつながると考える。 ・一方で廊下や階段を走ることは一つ間違えると重大な事故になる恐れがある。学校全体の共通理解のもと、子どもたちの安全への意識を高める取り組みを期待したい。	97%	97%	

学校関係者評価総括 ・日々の授業や指導、授業研究や研修など、教職員の真摯な取り組みが伝わってくる。今後も、新しい学校教育目標の具現化に向けて、学校全体で取り組みを進めてほしい。 ・教職員の負担に配慮しながら、子どもたちが楽しみにしている遠足や運動会などの行事はこれからも大切にしてほしい。 ・未来を担う子どもたちの育成のために、保幼小・小中の縦の連携の充実が大切である。 ・アンケートの項目やアンケートの対象学年、数値目標の立て方などについては、適切に評価することができるよう検討が必要である。 ・保護者の学校評価アンケートの提出が60%を下回っていたとのことなので、より多くの保護者に提出してもらう工夫が必要である。
次年度に向けた重点的な改善点 ・「ねばり強さ」や「自己肯定感」等の非認知能力の育成 ・主体的に学ぶ姿勢や思考力を高めるための授業力の向上 ・一人一人の子どもたちを大切にしたかわり、安心して過ごせる学級づくり ・すべての児童が安心して過ごし学べる特別支援教育の推進

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った